

取材を終えて

「ごみ分別のルールを守り、個人のモラルを高めたい」



市民レポーター
野田しのぶさん

今回、取材させていただきいろいろ勉強しました。

例えば、出される側(行政の心配りや努力、ガスの抜き忘れによる)危険性と背中合わせの業務や(分別して正しく出してほしいという)シレンマ。みんな知らなかったことばかりです。

「ごみの分別・減量は、誰のためでもない、明日の私たちの生活のためなの・・・」

また、「ごみを出す側と出される側の意識の違いも感じました。出す側の私たちには、「分別↓リサイクル」しか頭に無かったのではないのでしょうか。増える一方のごみ。いつか処分できなくなるのは、予測できそうです。



なものなのに、無駄な包装や(不要なものは買わないことへのこだわりはなく、つい「リサイクル」に目がいつてしまっています。

本当は、「ごみの排出を減らすことが第一で、その向こうにリサイクルがあること」に気がつきました。

私たちの責務として、(きちんとしたごみ分別のルールを守り、個人のモラルを高め、自信を持つ)「ごみ袋を出すこと」です。この先、「ごみ減量の手段として分別項目が増えること」もあり得ます。

私たちは、まず減量、そしてその向こうにリサイクルを目指すべきではないのでしょうか。

「ごみに対して「排出責任」があることを感じました」



市民レポーター
坂本政子さん

今回ごみの取材をしてみても、分別収集をしているつもりが、実は正しくなかったことに気づかされました。(ささゆりクリーンパークの大変な再分別作

業の現場を見て) また、「ごみを受け入れる側がささゆりクリーンパーク1カ所なのに対して、排出する私たち市民はさまざまであり、個々の分別収集に対するマナーがいかに大切であるかということを感じました。

また、関係者にお話を聞いて、今まで行政に任せきりだったごみの問題は、実は私たち市民にも「排出責任」があると感じました。

「ごみを出すのではなく、いか



にしたら減らせるのか考えさせられました。

こうした経験を踏まえてからは、家でも分別だけでなく、減量という新たな取り組みをしていこうと思えました。

ごみの減量は マイバッグから



ごみ減量のひとつに、「マイバッグ」があります。これは、スーパーなどに行き物を買うとき、レジ袋の代わりに購入した品物を入れる袋のことです。

持ちやすく、使いやすいオリジナルのバッグを作ってみませんか。

材料:布1枚 (サイズ巾90cm長さ100cm)、ゴム1本(巾1cm長さ60cm) 同色の糸、まち針、留め具としてボタン1個。

問い合わせ先:坂本政子さん(29-1875)へ

マイ・バッグ・キャンペーン

県では、10月を「マイ・バッグ・キャンペーン」実施月間として、全県的に買い物時のマイバッグ運動を展開します。

これは、マイ・バッグを持参することにより、買い物時のレジ袋の削減をはかるものです。

期間中下記の日程で、「レジ袋ゼロデー」を県下一斉に実施します。

「レジ袋ゼロデー」: 10月5日(土)